

第5回湧別川ほか減災対策協議会
第3回佐呂間別川水系減災対策協議会
議事概要

日 時：令和元年7月23日（火）13：30～15：00

会 場：湧別町文化センターさざ波 多目的ホール

出席者：遠軽町長、湧別町長、北見市防災危機管理担当部長、佐呂間町長、網走地方
気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課
長、遠軽警察署長、遠軽地区広域組合消防本部消防長、北見地区消防組合消
防本部消防長、北海道電力株式会社旭川水力センター遠軽土木課長、網走開
発建設部長、オホーツク総合振興副局長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針等
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 令和元年度以降の取組内容
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール（案）

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

（北見市）

- ・ 佐呂間別川において、見直した洪水ハザードマップを流域の丸山、瑞穂地区などの40世帯に配布した。
- ・ 想定最大規模の浸水深が10m未満となる地域も想定されており、佐呂間別川と並行する道道についても土砂災害の危険性もあることから通行止めも考えられる。
- ・ 地震用に指定した避難所は、浸水区域にあるため、災害事象によっては、佐呂間町への避難も検討していかなければならず、協議会において情報共有を図っていききたい。
- ・ 常呂自治区において各機関の協力のもと作成された多機関連携型タイムラインについて、新たな運用が始まっているが、警報レベルなど様々な考えが示され、情報が混乱しているなかで、どのようにして住民周知を図っていくかが課題である。

（佐呂間町）

- ・ 平成18年に大きな災害があり、これを契機に北海道にて佐呂間別川の改修を始め今は5割程度進められている状況。
- ・ 平成27年の災害、28年の災害では堤防を越えるような浸水被害はなかった。
- ・ 佐呂間別川と芭露川は、サロマ湖の潮位の影響を受けるため、満潮時は市街地まで樋門を閉めないと逆流してくる。このため、移動式の水中ポンプと平成28年には湧別町の移動式水中ポンプを借りながら対策を行っている。
- ・ 佐呂間別川に設置されている水位計が、40mm/h、50mm/h程度でも危険水位となってしまう。職員は待機を強いられることから、河川改修が完了した段階で水位の設定を考えて欲しい。
- ・ 湧別川では、簡易型の監視カメラを設置予定であるが、佐呂間別川水系についても佐

呂間地区や芭露地区に設置をお願いしたい。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・水位計については、設置箇所の河川改修があと1～2年くらいかかるため、改修工事終了後に水位計設置箇所や判断水位の見直し等を考えたい。
- ・監視カメラについては、今年度の設置を考えている。設置予定箇所については、今後打合せさせていただきたい。

(北見地区消防組合)

- ・留辺蘂町丸山地区や瑞穂地区などは、中心市街地から離れており世帯数も少ないことから、消防団員の確保が非常に難しい地区であるため、引き続き消防団員の募集を行っていききたい。
- ・上記地区においては、集落孤立や道道冠水により北見市や留辺蘂町からの救助支援活動に影響が出ることも懸念される。
- ・災害に備え、日頃より消防団と連携した訓練、市町の水防訓練等に参加していききたい。また、災害発生の際は、人員確保などのため、情報をいち早く発信してもらいたい。

(網走地方气象台)

- ・今後出水期をむかえることから、警戒レベル、危険度分布などわかりやすい情報を提供してゆく。
- ・防災を身近に考えてもらうため、一日防災学校や防災訓練、職員研修等に協力してゆく。
- ・網走地方气象台ができて今年で130年になることから、气象台職員で考えた防災落語を町のイベントで実施しており、NHKでも取り上げられた。希望があれば可能な限り対応したい。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・防災や危機管理においては、最悪の事態を見据えた具体的な計画(中期的、長期的)をもつことが重要。避難、水防、排水の計画があるが、努めて具体的にする必要がある。
- ・計画は、目的を整え、これを達成するための資源の充実、資源をどう運用するかとの3段階である。各自治体は目的と資源を揃えるところまでは行っているが、これらを具体的に組み合わせる有難の際にどう運用するかということを考えていく必要があるのではないかと。
- ・訓練において、決まり切ったことを実施するシナリオ型や提示型の訓練よりも、次に何が起こるか分からないブラインド型(状況判断型)の訓練を実施する方が、有難の際には有効である。
- ・防災監という制度や、災害のノウハウを持った自衛隊、自衛官、OBなどを是非活用して頂きたい。

(北海道電力(株)旭川水力センター)

- ・湧別川水系において発電専用の利水ダムを運用している。ダムは利水ダムのため、洪水調節は出来ないが、操作規程を遵守し、安全に配慮しながら運用している。
- ・今年5月に湧別川水系の災害対策用機械操作訓練に参加、6月に遠軽町の図上訓練を見学した。今後も機会があれば積極的に参加し、気づいた点があれば積極的に意見さ

せて頂きたい。

(遠軽警察署)

- ・災害発生時に地元の警察が出来ることは、交通規制と避難誘導である。ハザードマップや要配慮者の所在について考慮のうえ、迅速な避難誘導に努めていきたい。
- ・日頃から防災知識の向上に努め、高齢者を訪問し災害時には避難するよう指導している。
- ・各関係機関と連携を密にして情報共有を図るとともに、情報伝達訓練を行っていきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・管内の実態把握は、警察それぞれでおこなっているが、大雨や土砂災害などが起きた際は警察だけでは判断出来ない状況もある。関係機関と情報共有を図り、顔の見える関係を築いていきたい。
- ・今後も自治体主催の各種訓練等にも参加させて頂きたい。

(遠軽地区広域組合)

- ・協議会が当初よりしっかりとした内容になってきている。
- ・構成する各町の水防計画に基づいた水防避難訓練等に積極的に参画し、各町と協力・連携のうえ、地域住民の迅速・確実な避難に向けて水防活動等に取り組んでいきたい。

(湧別町)

- ・本協議会は、回を重ねる毎に身のある内容になってきている。
- ・災害を未然に防ぐことが出来れば良いが、災害をゼロにすることは不可能であり、起きたときにいかに被害を少なくするかということを目的に設立された協議会であると認識している。
- ・湧別川、佐呂間別川では平成18年以降に甚大な被害は無いことから、言い方が悪いが、地域住民は災害慣れしていない。災害は常に起きるのだという状況を知って理解してもらうことは重要。
- ・甚大な被害が起きた際は、行政だけで住民の命を全て守ることは難しいことから、地域の自主防災組織がしっかりと、基本的に自分の命は自分で守るということを地域住民に理解してもらうことは大切。
- ・町村だけでは災害対応は難しいことから、関係機関がひとつになり減災に向かっていくことはとても重要。
- ・今後とも協議会の持続とリエゾンへ力を入れてもらうことをお願いしたい。

(遠軽町)

- ・湧別川は住民生活に密着しており、大雨が降ると非常に大きな影響がある。また、公共下水道の雨水排水の放流先となっている。大雨時には、インターネット上で湧別川の水位を監視しながら、市街地の樋門設置箇所において、樋門を閉扉しても内水氾濫が起きないように、ポンプ車や発電機を事前に配置している。
- ・樋門閉扉の際は、開発局よりいち早く情報もらっているが、今後も継続してこの連絡調整を密に行っていきたい。
- ・十分な河積を確保するため、河道掘削、流木の処理などの対応を引き続きお願いしたい。

- ・ 町内の水道水は湧別川を源水として使用しており、瀬戸瀬ダム下流の清川浄水場において浄水しているが、大雨時にダムの放流があった場合には濁りが大きくなり、浄水場に負担が大きくなることから、生田原地域、安国地域、白滝地域については、地下水に切り替えてきている。しかし、全てを地下水でまかなうのは難しいため、高濁度の河川水も使用できるよう、浄水場の敷地内に調整池を作るための委託設計を今年度実施しており、来年から工事を実施する予定。
- ・ 町としても災害訓練を実施しているが、色々なことを想定したうえでの災害訓練が絶対不可欠であり、引き続き実施していきたい。

(網走開発建設部)

- ・ 大規模な洪水が発生し、重大な被害が発生するような場合においては、避難勧告等の判断への支援として、部長もしくは事務所長から首長へホットラインにより様々な情報提供を行っていききたい。
- ・ リエゾンについては、首長の助けとなるような人材を派遣していく。
- ・ 平成30年7月豪雨を踏まえ、水防災意識社会再構築ビジョンをより一層加速化させるために様々な取組を行っている。その一つの取組として、「多様な関係機関の参画」という観点があるが、本協議会は利水ダムの管理者である「北海道電力(株)旭川水力センター」が既に参加しており、先手の取組となっているので、引き続きよろしくお願ひしたい。
- ・ ハード整備は重要であるが、多くの関係者の事前の備えと連携の強化により、複合的な災害にも多層的に備えるためにも、ソフト対策も非常に重要。
- ・ 平成30年7月豪雨では、「まさか」、「危機感が伝わっていない」、「ハザードマップを知らない」等の様々な理由で避難をしなかったもしくは避難できなかった住民がたくさんいた。このようなことによる被害を繰り返さないためにも、このような避難しなかった、できなかった住民の方々を少しでも避難へ繋げていくことが必要。
- ・ 協議会の取組が、様々な課題の答えになっているべきであるが、引き続き、強化できる部分は幹事会で議論を行っていただきたい。

【その他】

(湧別町)

- ・ 一般国道242号が横断する中土場川(北海道管理区間)の伐開を実施しているが、2年くらいおきに刈払い等の対応をすれば、樹林化せず安価に維持管理できるのではないか。

(網走開発建設部)

- ・ 国土交通省では、3ヶ年の国土強靱化対策の一つとして、河畔林の伐開を実施している。その後の維持管理として、再樹林化させないようにするための検討を行っているところ。今後、情報共有したい。

以上